

# 2020年3月期 決算説明会

2020年5月13日

キョーリン製薬ホールディングス株式会社  
代表取締役社長 荻原 豊



## ➤ 2020年3月期 連結決算の概況

- ・主力製品、後発医薬品の取り組み

## ➤ 2021年3月期 連結業績予想

## ➤ 研究開発パイプラインの状況

## ➤ 長期ビジョン「HOPE100」実現に向けた取り組み

- ・中期経営計画「HOPE100－ステージ2－」（2016～2019年度）の総括
- ・新中期経営計画「HOPE100－ステージ3－」（2020～2023年度）について

# 2020年3月期 連結決算の概況

# 2020年3月期 連結決算の概観

(単位：億円)

	19年3月期	20年3月期	対前年		対予想 (19年11月7日発表)
			増減額	増減率 (%)	増減額
売上高	1,136	1,100	-36	-3.2	+6
営業利益	90	75	-15	-16.4	+10
経常利益	94	82	-12	-13.4	+11
親会社株主に帰属する当期純利益	69	61	-8	-10.5	+7

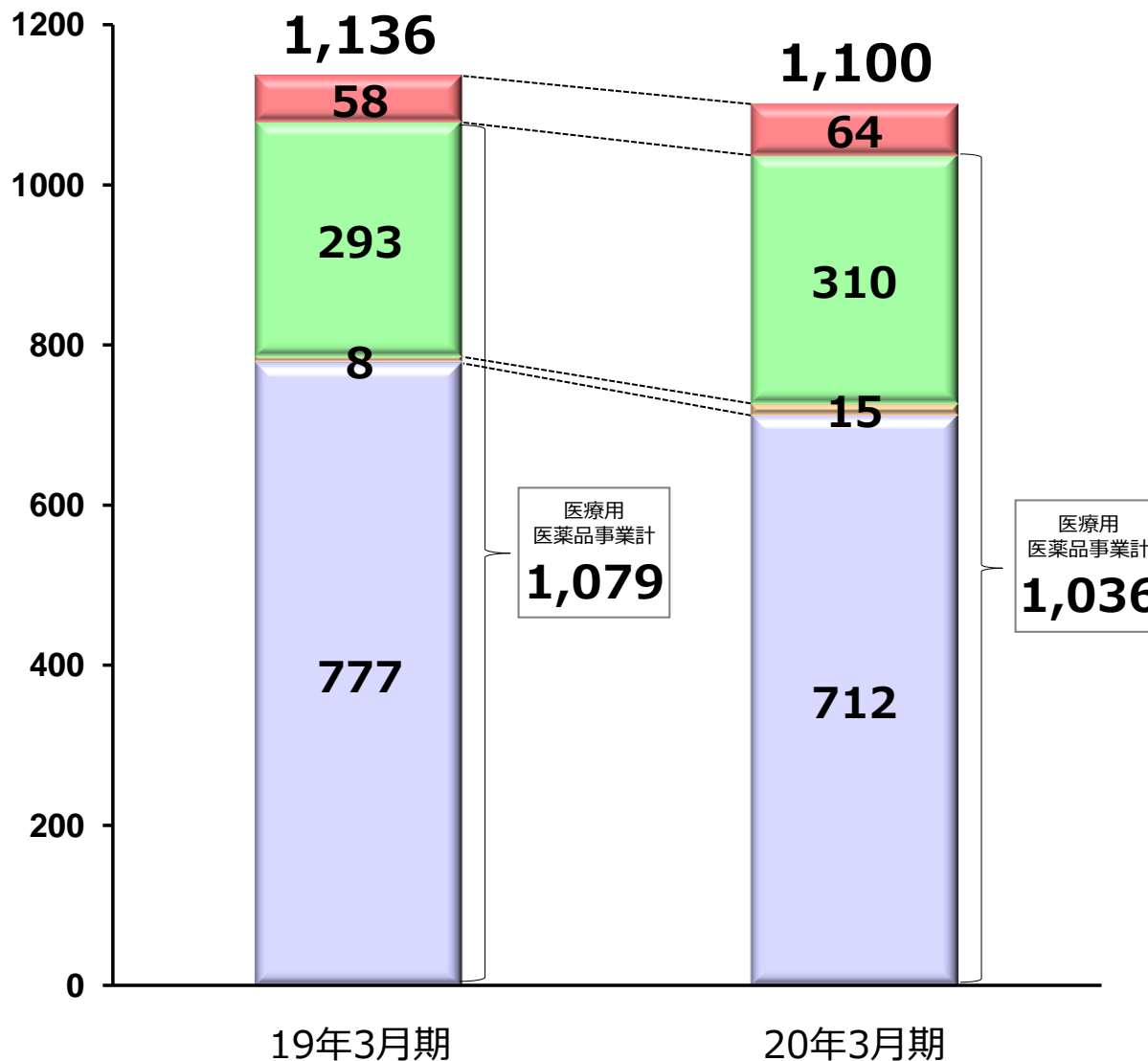
# 2020年3月期 業績の概要

(単位：億円)

	19年3月期	20年3月期	対前年		対予想 (19年11月7日発表)
			増減額	増減率(%)	増減額
<b>売上高</b>	1,136	<b>1,100</b>	-36	-3.2	+6
	1,079	1,036	-43	-3.9	+2
医療用医薬品事業	新医薬品	726	-59	-7.5	+2
	国内	777	-65	-8.4	+2
	海外	8	+7	+79.5	+1
	後発医薬品	293	310	+17	+5.5
ヘルスケア事業	58	64	+6	+10.8	+5
<b>売上原価</b>	562	<b>530</b>	-32	-5.8	-
<b>販売費及び一般管理費 (内、R&amp;D費)</b>	484 (108)	<b>495 (110)</b>	+11	+2.3	-
<b>営業利益</b>	90	<b>75</b>	-15	-16.4	+10
<b>経常利益</b>	94	<b>82</b>	-12	-13.4	+11
<b>親会社株主に帰属する当期純利益</b>	69	<b>61</b>	-8	-10.5	+7

# 2020年3月期 業績のポイント① 対前年：売上高

売上高（単位：億円）



## 【売上高計 - 36億円】

### 医療用医薬品事業計 - 43億円

#### 国内新医薬品 - 65億円

長期収載品（ナゾネックス等）の売上減少  
 デザレックスの供給再開の遅れ  
 フルティフォーム、ベオーバの売上伸長  
 ラスビック錠の新発売

#### 海外新医薬品 + 7億円

ガチフロキサシンに関わる収入が増加  
 契約に伴う一時金収入

#### 後発医薬品 + 17億円

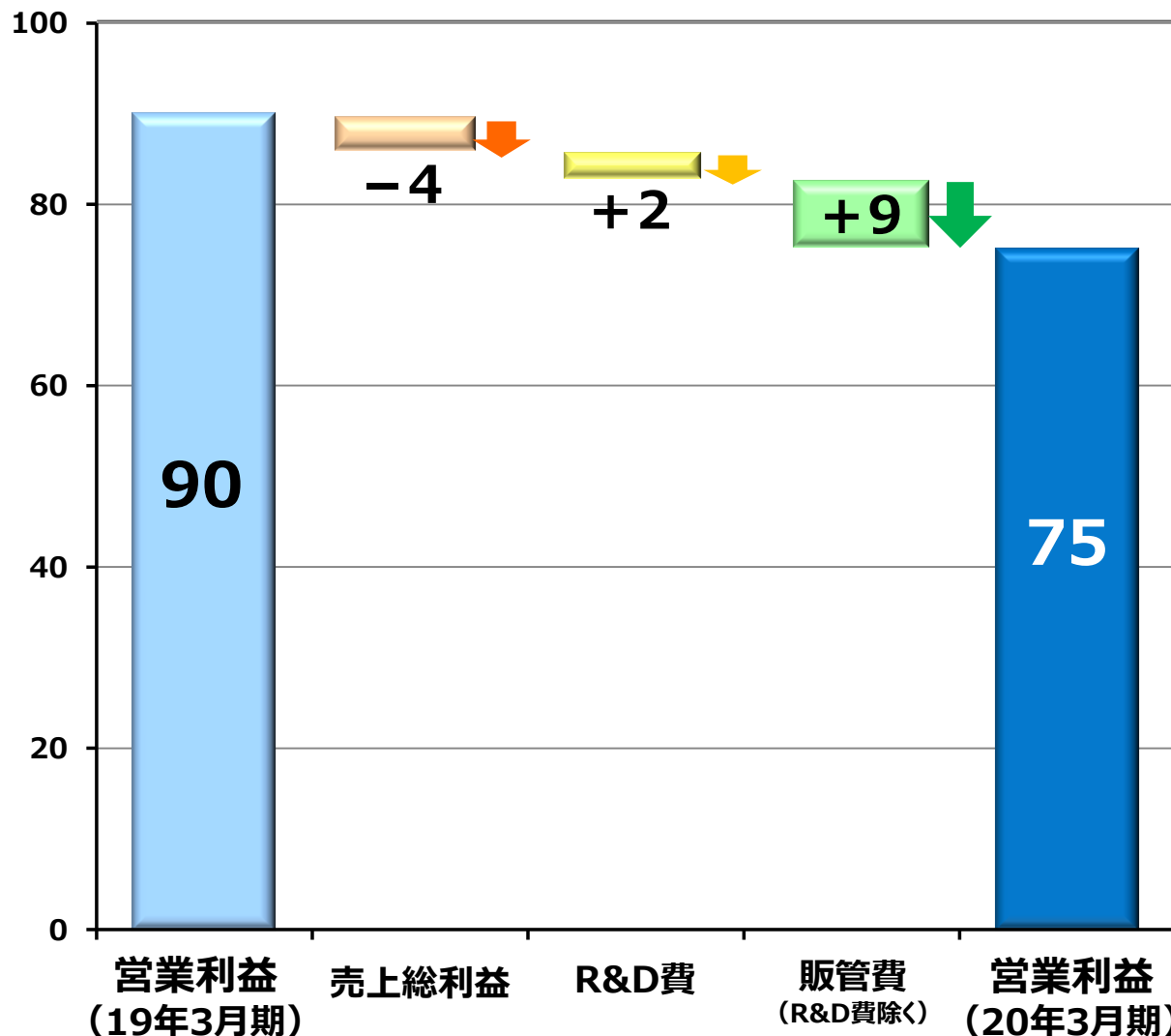
ナゾネックスAGの新発売

#### ヘルスケア事業 + 6億円

ルビスタ、ミルトンの売上増加

# 2020年3月期 業績のポイント② 対前年：営業利益

(単位：億円)



## 【営業利益 - 15億円】

### 売上総利益 約4億円減少

売上高：前年比36億円減

売上原価率：1.4ポイント低下

- ・消費税増税に伴う薬価改定の影響 (3%台)
- ・プロダクトミクスの改善 (新薬群の売上拡大)

### 販管費計 約11億円増加

#### R&D費の増加

- 108億円 (19/3期) ⇒ 110億円 (20/3期)
- ・導入品契約一時金の増加 (ATYR1923の導入一時金 約9億円)

#### 販管費 (R&D費を除く) の増加

- 376億円 (19/3期) ⇒ 385億円 (20/3期)
- ・特許等使用料の増加等

# 2020年3月期 業績のポイント③ 対予想

(単位：億円)	19年3月期	20年3月期	対前年		対予想 (19年11月7日発表)	
			増減額	増減率(%)	増減額	
<b>売上高</b>	1,136	<b>1,100</b>	-36	-3.2	<b>+6</b>	
	1,079	1,036	-43	-3.9	+2	
医療用医薬品事業	新医薬品	785	726	-59	-7.5	+2
		国内	777	712	-65	-8.4
	海外	8	15	+7	+79.5	+1
	後発医薬品	293	310	+17	+5.5	0
ヘルスケア事業	58	64	+6	+10.8	+5	
<b>売上原価</b>	562	<b>530</b>	-32	-5.8	-	
<b>販売費及び一般管理費 (内、R&amp;D費)</b>	484 (108)	<b>495 (110)</b>	+11	+2.3	- (+4)	
<b>営業利益</b>	90	<b>75</b>	-15	-16.4	<b>+10</b>	
<b>経常利益</b>	94	<b>82</b>	-12	-13.4	+11	
<b>親会社株主に帰属する当期純利益</b>	69	<b>61</b>	-8	-10.5	+7	

## 【対予想（19年11月7日発表）との差異】

売上高：（新医薬品）デザレックスが予想を下回ったものの、ペオーバ、フルティフォームの売上が伸長（ヘルスケア事業）ミルトン、ルビスタの売上が上振れ  
 営業利益：主力製品の売上過達および原価率改善により、売上総利益は増加。他方、販管費はR&D費が予想に対し若干上振れ（+4億円）



# 2020年3月期 主力製品の売上状況

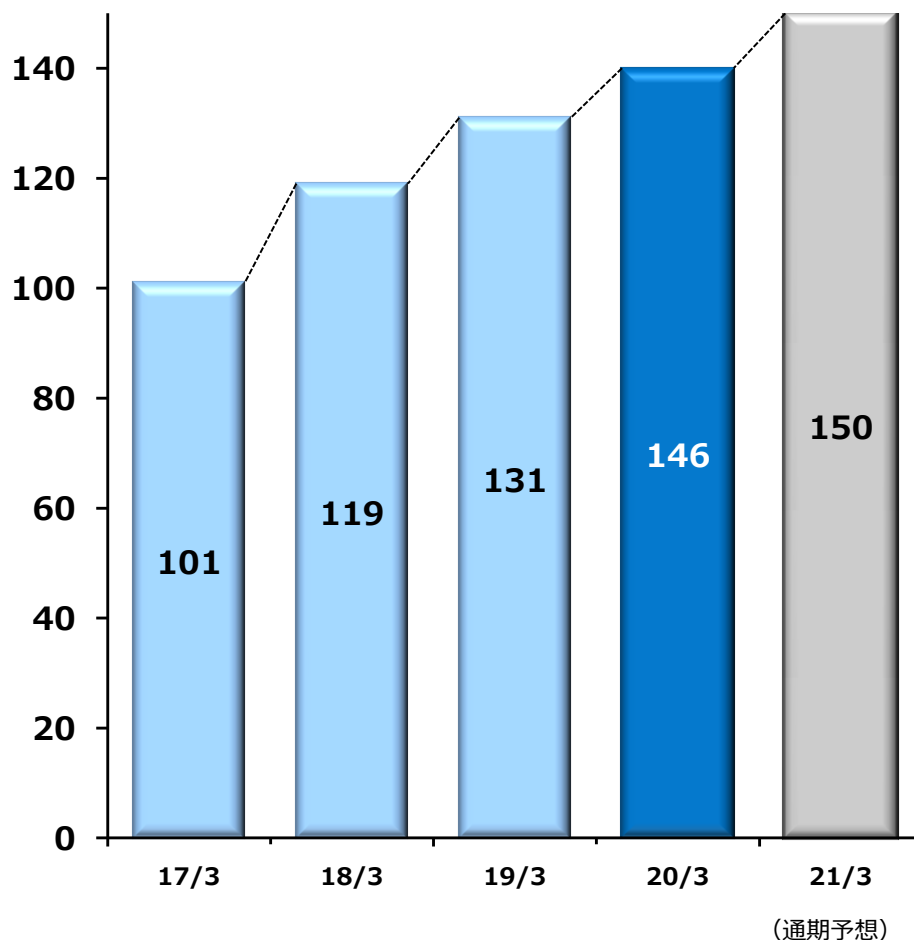
(単位：億円)

	19年3月期	20年3月期	対前年		対予想 (19年11月7日発表)
			増減額	増減率 (%)	増減額
フルティフォーム (喘息治療配合剤)	131	<b>146</b>	+15	+12.2	+5
デザレックス (アレルギー性疾患治療剤)	37	<b>26</b>	-11	-30.1	-24
ベオーバ (過活動膀胱治療剤)	7	<b>43</b>	+36	+481.0	+15
ラスビック錠 (キノロン系経口抗菌剤)	-	<b>11</b>	+11	-	+2
ウリトス (過活動膀胱治療剤)	66	<b>58</b>	-8	-11.7	-1
ペントサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	135	<b>133</b>	-2	-1.5	+6
ナゾネックス点鼻液 (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	128	<b>60</b>	-68	-52.8	-2
キプレス (成人製剤) (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	62	<b>53</b>	-9	-15.5	+6
キプレス (小児製剤) (気管支喘息治療剤)	76	<b>65</b>	-11	-14.6	+2
ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	68	<b>58</b>	-10	-14.5	-3
モンテルカスト錠「KM」 (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	119	<b>115</b>	-4	-3.3	0
モメタゾン点鼻液「杏林」 (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	-	<b>28</b>	+28	-	+10

# 主力製品、後発医薬品の取り組み

# ■主力製品 フルティフォーム（喘息治療配合剤）

売上高（単位：億円）



## ■20年3月期の状況

### ◆ICS/LABA配合剤：2.4%拡大

1,203億円（19年3月MAT）⇒1,232億円（20年3月MAT）<sup>注1</sup>

### ◆フルティフォームの売上シェア

12.2%（19年3月MAT）⇒13.2%（20年3月MAT）<sup>注1</sup>

## ■21年3月期の取り組み

### ◆「喘息治療のファーストチョイス」のポジショニングを確立する

- 「咳」症状を有する患者さんへの高い臨床効果を訴求
- 中枢から末梢まで、肺全体への良好な薬剤分布
- エアゾール製剤のメリット訴求－吸気力の弱い方でも楽に吸入できる

### ◆小児適応の拡大（KRP-108P）

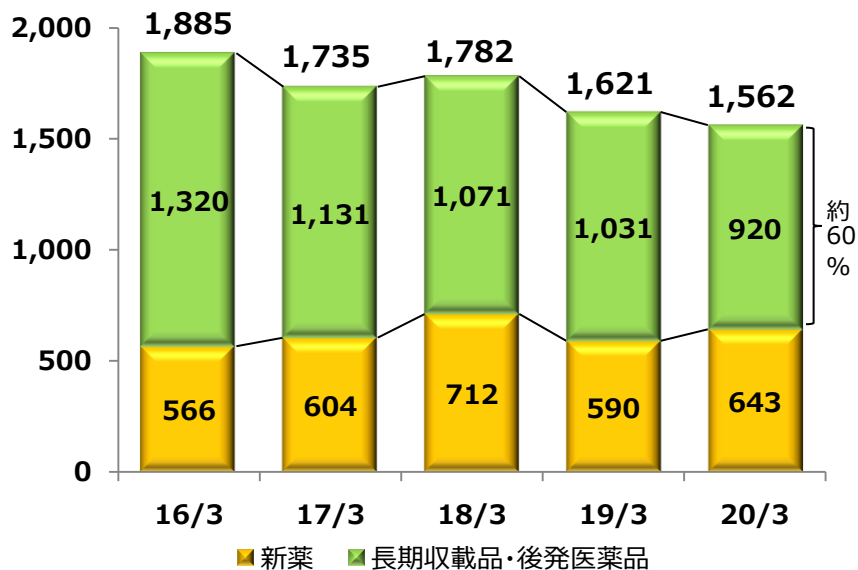
- 使用対象患者数：約100万人  
 （小児気管支喘息治療・管理ガイドライン2018における治療ステップ3及び4）
- 小児喘息の約30%は、成人喘息へ移行

注1 Copyright © 2020 IQVIA. JPM 2019年3月MAT、2020年3月MATを基に作成 無断転載禁止

# ■主力製品 デザレックス（アレルギー性疾患治療剤）

売上高（単位：億円）

## 抗ヒスタミン市場推移



出典：Copyright © 2020 IQVIA. JPM 2016/3 MAT - 2020/3 MATを基に自社分析 無断転載禁止

### ◆抗ヒスタミン剤市場：3.6%縮小

1,621億円(19年3月MAT) ⇒ 1,562億円(20年3月MAT)<sup>注1</sup>

### ◆市場の概況

- 長期収載品および後発医薬品の割合 約60%
- 12歳以上の市場 1,250億円

### ◆デザレックスの売上シェア

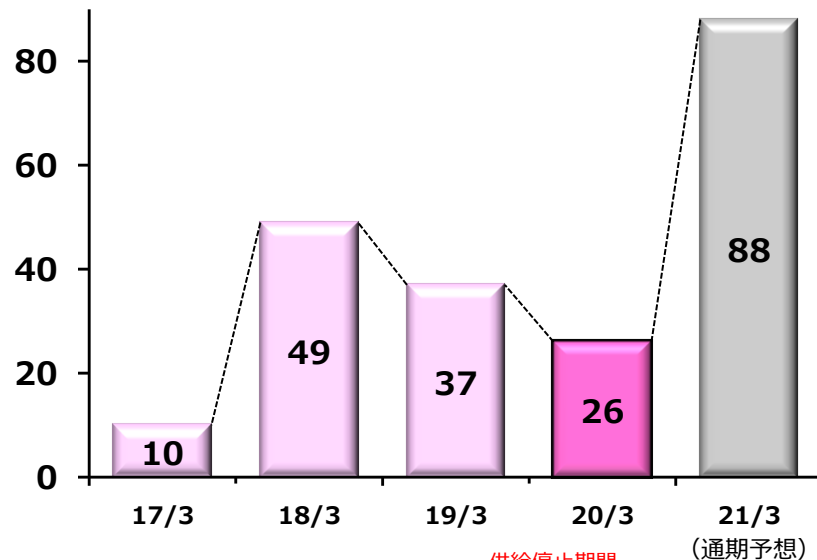
3.0% (19年3月MAT) ⇒ 1.7%(20年3月MAT)<sup>注1</sup>

- 18年12月単月：6.3%<sup>注2</sup> (供給停止前)
- 20年 3月単月：4.2%<sup>注2</sup> (供給再開後)

注1 Copyright © 2020 IQVIA. JPM 2019年3月MAT、2020年3月MATを基に自社分析 無断転載禁止

注2 Copyright © 2020 IQVIA. JPM 2018年12月単月、2020年3月単月を基に自社分析 無断転載禁止

売上高（単位：億円）



### ■20年3月期の状況

#### ◆20年3月期実績 26億円

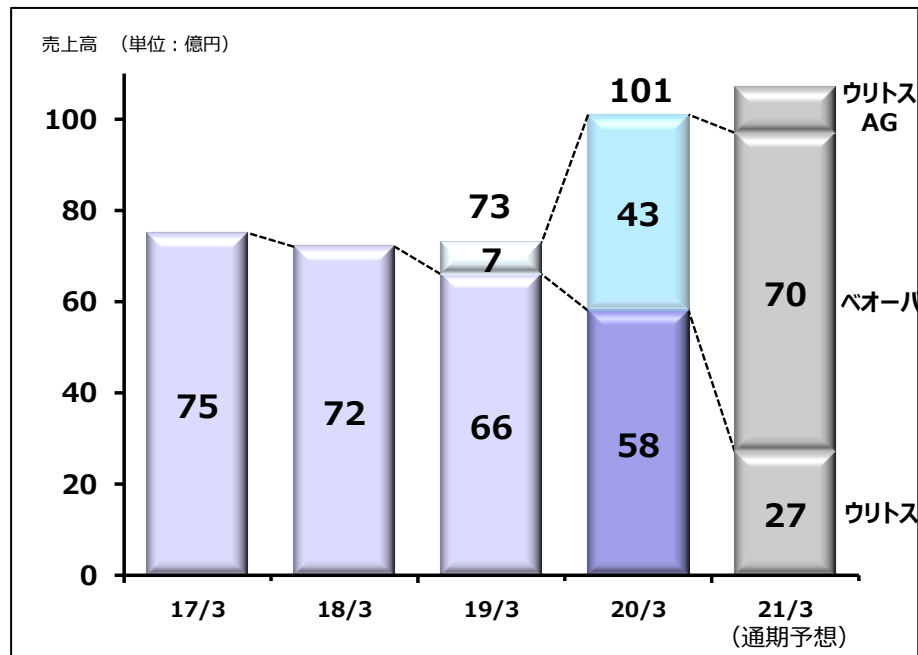
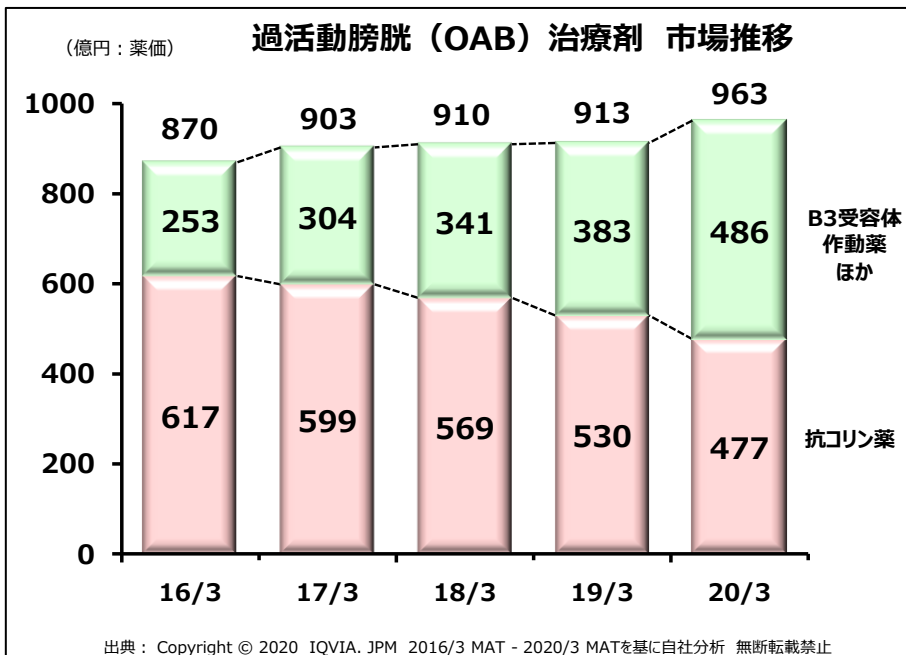
自主回収開始	供給再開
2019年1月7日	2019年11月18日

### ■21年3月期の取り組み

#### ◆「効果の高さ」「眠気の少なさ」「使いやすさ」を訴求

- 耳鼻科における処方獲得率No.1の実現
- 内科における軒数拡大・処方獲得に注力

# ■主力製品 ベオーバ・ウリス (過活動膀胱治療剤)



## ■過活動膀胱治療剤市場は拡大中

870億円 (16年3月MAT) ⇒963億円 (20年3月MAT) 注1

・B3受容体作動薬市場が拡大

## ■20年3月期の状況

### ◆ベオーバの売上シェア

0.6% (19年3月MAT) ⇒ 5.0% (20年3月MAT) 注2

### ◆ウリスの売上シェア

8.3% (19年3月MAT) ⇒ 7.0% (20年3月MAT) 注2

注1 Copyright © 2020 IQVIA. JPM 2016年3月MAT、2020年3月MATを基に作成 無断転載禁止

注2 Copyright © 2020 IQVIA. JPM 2019年3月MAT、2020年3月MATを基に作成 無断転載禁止

## ■20年3月期

- ◆Jeil 社とビバグロンの韓国におけるライセンス契約締結 (19年11月)
- ◆ベオーバ、ウリスでシェア獲得

## ■21年3月期の取り組み

- ◆ベオーバを過活動膀胱治療剤の第一選択薬に育成
  - OAB症状、性別、年齢、患者背景を問わず処方が可能
  - 「効果の早さ、高さ、安全性」を訴求

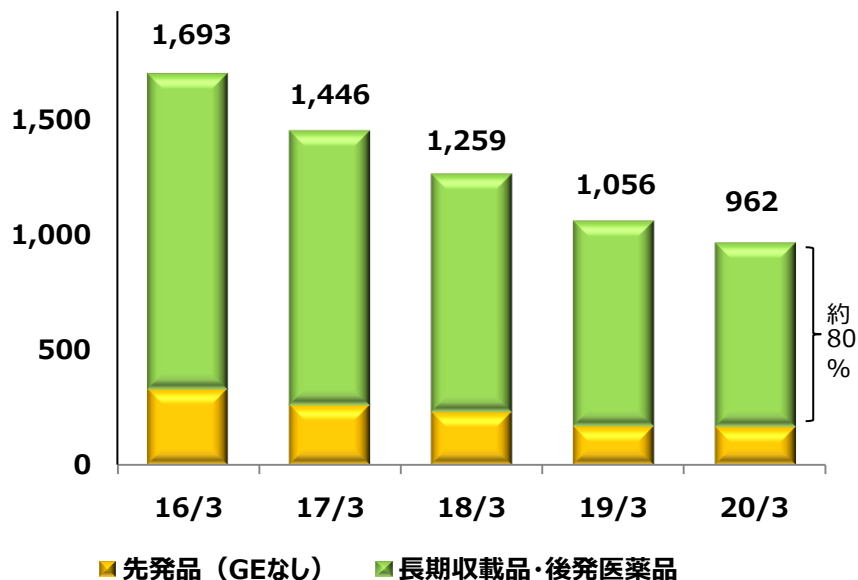
※投薬期間制限解除により、当初予想を大幅に上回るスピードで多くの患者さんに処方いただき、特約店への出荷調整を行っています

## ◆ウリスはイミダフェナシンAGを発売予定(6月)

# ■主力製品 ラスビック錠（キノロン系経口抗菌剤）

売上高（単位：億円）

## 経口抗菌剤市場推移



出典：Copyright © 2020 IQVIA. JPM 2016/3 MAT - 2020/3 MATを基に自社分析 無断転載禁止

### ■経口抗菌剤市場

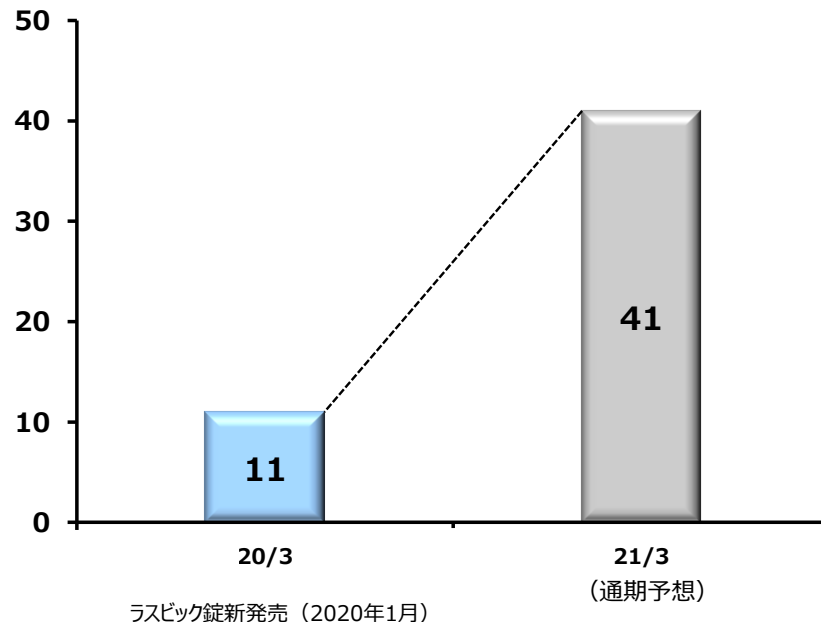
1,056億円（19年3月MAT）⇒962億円（20年3月MAT）注1

#### ◆市場の傾向

- AMR問題による抗菌剤の適正使用の推進
- 長期収載品および後発医薬品の割合は約80%

注1 Copyright © 2020 IQVIA. JPM 2019年3月MAT、2020年3月MATを基に作成 無断転載禁止

売上高（単位：億円）



### ■21年3月期の取り組み

#### ◆適正使用推進と製品普及最大化に取り組む

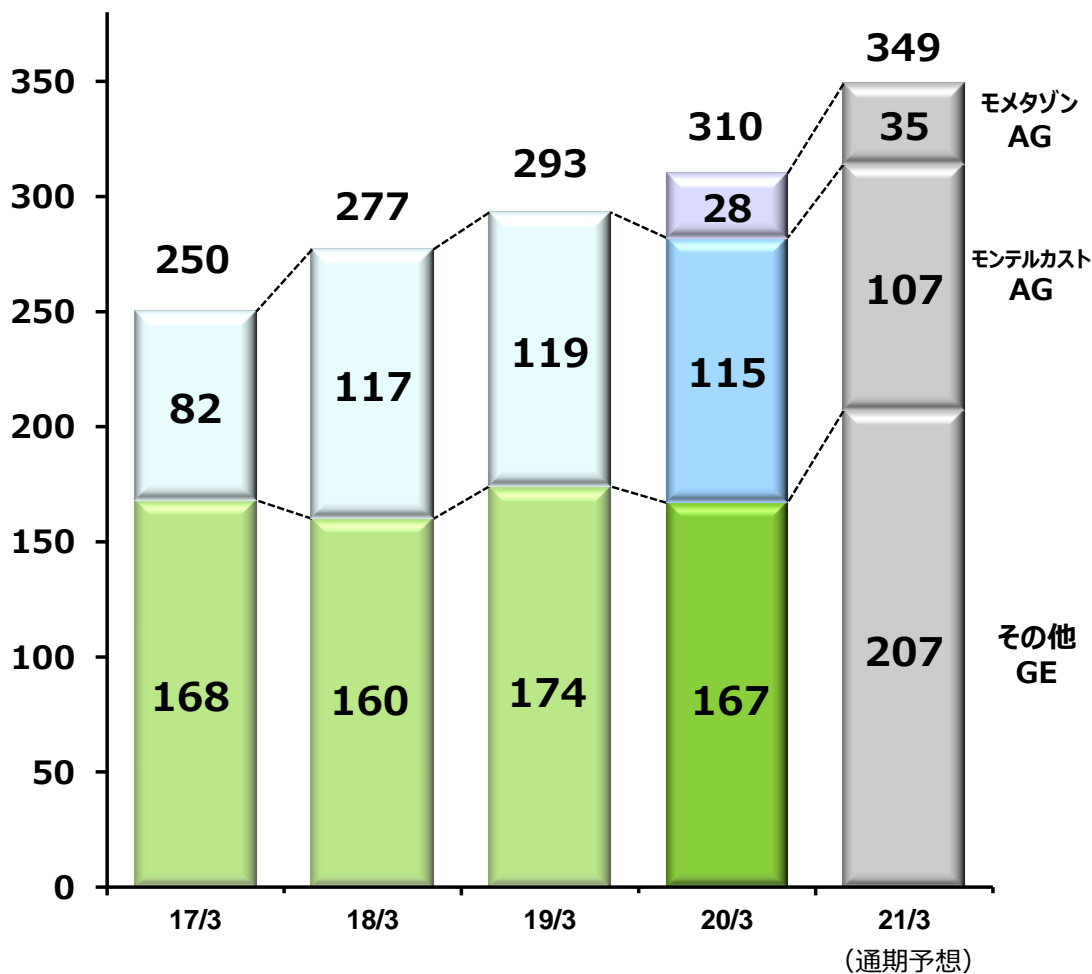
##### ●従来とは異なる新しいコンセプトに基づいて開発

- ①ターゲット菌種（特にグラム陽性菌及び嫌気性菌）への抗菌力を重点的に強化
- ②標的組織（肺および耳鼻咽喉組織）への移行性を高める
- ③低用量（75mg）で治療ターゲットに十分な抗菌力を有し、耐性菌の発現をし難くする

#### ◆注射剤(KRP-AM1977Y)は今年度、承認・上市を目指す

# ■ 後発医薬品事業

売上高 (単位：億円)



## ■ 20年3月期の状況

- ◆ モメタゾンAGの発売 (8月)
- ◆ モンテルカストAG GE市場内で50%以上を維持

・19年3月期発売の追補品  
 シロドシン錠・OD錠2/4mg、メコバラミン錠500μg

## ■ 21年3月期の取り組み

- ◆ オーソライズド・ジェネリック (AG) の取り組み
  - ・モンテルカストAGおよびモメタゾンAGのGE市場内シェア50%以上を目指す
  - ・次なるAGの展開：イミダフェナシンAG (ウリス) の発売 (6月)
- ◆ 重点品、新規追補品の売上拡大
  - ・20年6月追補予定品：7成分13品目  
 レボセチリジン塩酸塩錠2.5mg/5mg、DS0.5%  
 メマンチン塩酸塩OD錠5mg/10mg/20mg 他



## 特長：

- ◆迅速・的確・簡便で小型化されたPCR装置
- ◆マイクロ流路型サーマルサイクル技術により、短時間（5-15分）で検出可能

2019年 11月11日	「GeneSoC®」を研究用機器として発売
2020年 3月17日	AMEDと「先進的医療機器・システム等技術開発事業」の委託研究開発契約を締結
2020年 3月18日	新型コロナウイルス検出試薬「SARS-CoV-2 GeneSoC ER 杏林」公的医療保険適用
2020年 3月31日	「GeneSoC®」を全国16カ所の医療機関等を実戦配備
2020年 4月24日	新型コロナウイルス検出試薬「SARS-CoV-2 GeneSoC ER 杏林」発売

### 【2020年度の取り組み】

- 研究用試薬の発売（呼吸器感染症および性感染症）
- GeneSoC専用自動前処理デバイスの発売を目指す
- POCT※モデル「GeneSoC mini」の発売を目指す

### 【2021年度以降の取り組み】

- 体外診断用医薬品としての事業化

※POCT (Point of Care Testing): ベッド(患者)サイドで医療従事者が行う検査



# 2021年3月期 連結業績予想

# 2021年3月期 連結業績予想

(単位：億円)	20年3月期	21年3月期 (予想)	対前年			
			増減額	増減率 (%)		
<b>売上高</b>	<b>1,100</b>	<b>1,155</b>	+55	+5.0		
	1,036	1,105	+69	+6.7		
医療用医薬品事業	新医薬品	726	756	+30	+4.1	
		国内	712	746	+34	+4.8
		海外	15	10	-5	-32.9
	後発医薬品	310	349	+39	+12.7	
ヘルスケア事業	64	50	-14	-21.7		
<b>営業利益</b>	<b>75</b>	<b>97</b>	+22	+29.3		
<b>経常利益</b>	<b>82</b>	<b>102</b>	+20	+24.8		
<b>親会社株主に帰属する当期純利益</b>	<b>61</b>	<b>76</b>	+15	+23.6		

※新型コロナウイルスの感染拡大による2021年3月期の業績予想への影響については今後の動向を注視し、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示いたします

## 【増減要因（対前年）のポイント】

売上高：薬価改定（杏林製薬 2%台）が実施されたものの、新薬群（フルティフォーム、ベオーバ、デザレックス、ラスピック）の大幅な売上増加を見込む  
 販管費の減少：R&D費は前期比14億円減を見込む（110億円⇒96億円）  
 （参考）原価率は前期比約1ポイント上昇、販管費比率（R&D費除く）は前期比約1ポイント低下を見込む

# 2021年3月期 主力製品の売上予想

(単位：億円)

	20年3月期	21年3月期 (予想)	対前年	
			増減額	増減率 (%)
フルティフォーム (喘息治療配合剤)	146	150	+4	+2.4
デザレックス (アレルギー性疾患治療剤)	26	88	+62	+240.2
ベオーバ (過活動膀胱治療剤)	43	70	+27	+62.9
ラスビック錠 (キノロン系経口抗菌剤)	11	41	+30	+279.7
ウリトス (過活動膀胱治療剤)	58	27	-31	-52.2
ペントサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	133	117	-16	-12.3
ナゾネックス点鼻液 (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	60	26	-34	-56.5
キプレス (成人製剤) (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	53	42	-11	-19.1
キプレス (小児製剤) (気管支喘息治療剤)	65	53	-12	-17.3
ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	58	49	-9	-14.5
モンテルカスト錠「KM」 (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	115	107	-8	-6.1
モメタゾン点鼻液「杏林」 (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	28	35	+7	+28.1

# 株主還元について

## 【基本方針】

- 健全な財務基盤を維持しつつ、成長投資と株主還元を通じて、資本効率の向上を図ります
- 株主還元は、DOE（株主資本配当率）を勘案して、安定した配当を継続します

20年3月期の1株当たり配当金（予想）：75円（うち中間30円）

## 【配当の推移と配当の予想】

	18年3月期	19年3月期	20年3月期 ※	21年3月期 (予想)
1株当たり 配当金	58円 (うち期末38円)	75円 (うち期末45円)	75円 (うち期末45円)	75円 (うち期末45円)
連結配当性向	65.9%	72.6%	70.9%	57.4%

※20年3月期の期末配当45円につきましては、5月21日に開催される取締役会で決定される予定です

# 研究開発パイプラインの状況

# 研究開発パイプラインの状況

19年度の取り組み（結果：2020年3月31日現在）

	製品名・開発コード	Ph I	Ph II	Ph III	申請	承認	上市
呼吸器	<b>Ad-SGE-REIC</b> 遺伝子治療剤（悪性胸膜中皮腫）	Ph I / Ph II 終了					
	<b>KRP-108P</b> 喘息治療配合剤		18年6月Ph II 開始		17年6月	19年7月	
感染症	<b>KRP-AM1977X</b> キノロン系合成抗菌剤					19年9月	1月8日 発売
	<b>KRP-AM1977Y</b> キノロン系合成抗菌剤					19年10月	
泌尿器	<b>KRP-116D</b> 間質性膀胱炎治療剤					20年3月	

※慢性咳嗽治療剤「MK-7264」 MSD社：Ph III 販売協業に関する覚書締結（19年5月）

※KRP-N118につきましては、当初設定していた製品プロファイルの実現が難しいとの判断に至り、開発を中止いたしました（20年2月）

## 【導入品の状況について】

開発コード	導入先	開発段階	特徴
<b>KRP-R120※ (ATYR1923)</b>	米国 aTyr社 (20年1月契約)	<b>Ph I b/2a</b> (米国)	融合タンパク製剤であり、Neuropilin-2 受容体に結合することで過剰な免疫細胞の活性化を抑制する作用を有し、ファースト・イン・クラスの治療薬として肺サルコイドーシス等の炎症疾患への効果が期待される

## 【導出品の状況について】

開発コード	導出先	開発段階	特徴
<b>FPR2作動薬プログラム</b>	米国 BMS社	<b>Ph I</b>	FPR2作動薬：主に好中球の遊走を抑制し抗炎症作用を示す 対象疾患：非開示
<b>KRP-203</b>	導出活動実施中	<b>Ph I</b>	S1P受容体アゴニスト 対象疾患：移植片対宿主病（GvHD）

# 研究開発パイプラインの状況

## 20年度の取り組み

	製品名・開発コード	Ph I	Ph II	Ph III	申請	承認・上市
	<b>Ad-SGE-REIC</b> 遺伝子治療剤（悪性胸膜中皮腫）	Ph I / Ph II 終了				
			18年6月Ph II 開始			
<b>呼吸器</b>	<b>KRP-108P</b> 喘息治療配合剤				19年7月	20年度の承認・上市を目指す
	<b>KRP-R120</b> 間質性肺疾患治療薬	20年度の臨床入りを 目指す				
<b>感染症</b>	<b>KRP-AM1977Y</b> キノロン系合成抗菌剤				19年10月	20年度の承認・上市を目指す
<b>泌尿器</b>	<b>KRP-116D</b> 間質性膀胱炎治療剤				20年3月	20年度の承認・上市を目指す

※慢性咳嗽治療剤「MK-7264」 MSD社：Ph III 販売協業に関する覚書締結（19年5月）

### 【導出品の状況について】

開発コード	導出先	開発段階	特徴
<b>FPR2作動薬プログラム</b>	米国 BMS社	Ph I	FPR2作動薬：主に好中球の遊走を抑制し抗炎症作用を示す 対象疾患：非開示
<b>KRP-203</b>	導出活動実施中	Ph I	S1P受容体アゴニスト 対象疾患：移植片対宿主病（GvHD）

**長期ビジョン「HOPE100」実現に向けた取り組み  
中期経営計画「HOPE100－ステージ2－」  
(2016～2019年度) の総括**

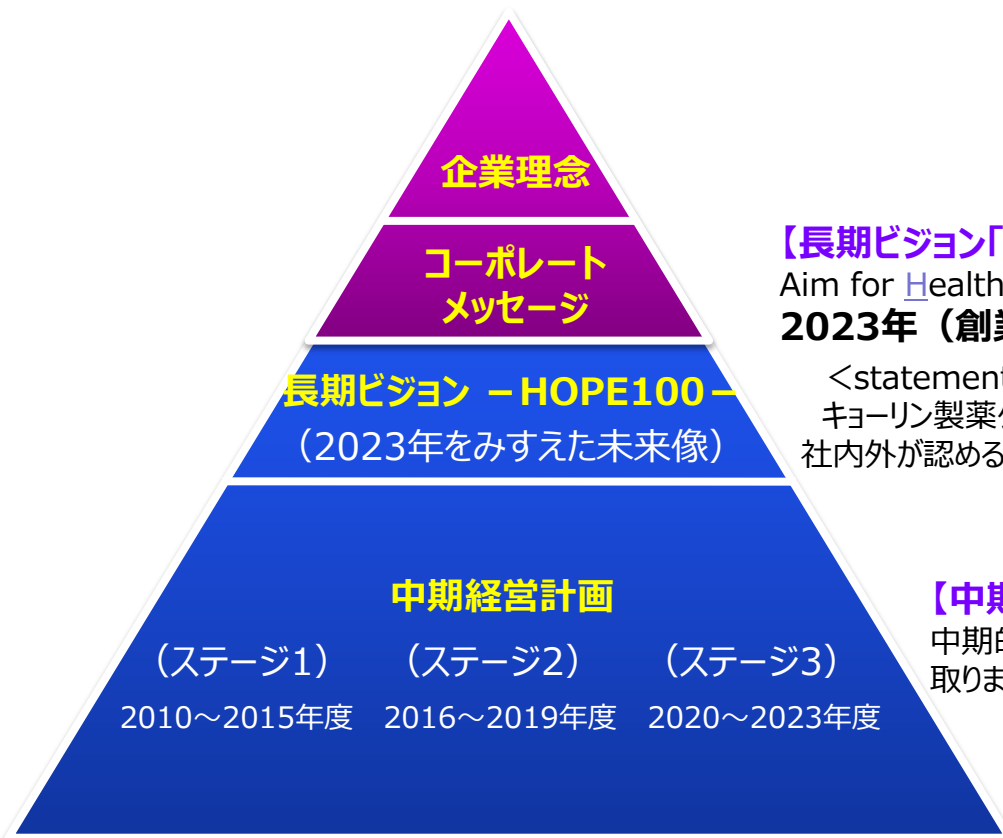


## 1) 企業理念 (キョーリン製薬グループの恒久的な使命および事業目的)

キョーリンは生命を慈しむ心を貫き、人々の健康に貢献する社会的使命を遂行します

## 2) コーポレートメッセージ (企業理念を社内外に伝えるメッセージ)

健康はキョーリンの願いです



### 【長期ビジョン「HOPE100」】

Aim for Health Of People and our Enterprises

2023年（創業100周年）をみすえたキョーリン製薬グループの未来像

<statement>

キョーリン製薬グループは、ヘルスケア事業を多核的に展開・発展させ、2023年には社内外が認める健全な健康生活応援企業へと進化します

### 【中期経営計画】

中期的期間におけるグループ経営の基本方針、到達目標などを総合的に取りまとめたもの



## 事業戦略 (Strategy)

### 【4つの重点戦略】

### 1.創薬力の強化

#### ◆創薬テーマの選択と集中

- ・キナーゼ研究／線維化研究

#### ◆オープンイノベーションへの取り組み

- ・京都大学と「呼吸器疾患創薬講座」設置
- ・微生物化学研究所と共同研究開始
- ・ヘブライ大学と戦略的パートナーシップを締結

### 3.特色を活かしたGE事業の推進

#### ◆高岡創剤研究所竣工（2017年7月）

#### ◆AGへの積極的な取り組み

- ・モンテルカストAG発売（2016年9月）
- ・モメタゾン点鼻液AG発売（2019年8月）
- ・イミダフェナシンAG製造販売承認取得（2019年8月）

### 2.新薬群比率の向上

（新薬群比率50%以上）

#### ◆フルティフォームの伸長

#### ◆4つの新製品の上市

- ・デザレックス（2016年11月）
- ・ベオーバ（2018年11月）
- ・ラスビック錠（2020年1月）
- ・KRP-AM1977Y申請（2019年10月）

### 4.ローコスト強化

#### ◆グループ生産機能の集約

- ・キョーリン製薬グループ工場設立  
（2018年4月本格稼働）
- ・工場稼働率平準化と資産効率活用

### 【育成戦略】

#### ◆環境衛生事業の強化

#### ◆診断事業への参入：超高速遺伝子定量「GeneSoC®」発売（2019年11月）

## 組織化戦略 (Organization)

働きがいNo.1企業を目指し、人材マネジメントシステムの構築・運用

成果目標  
(Performance)

最終年度(2019年度)目標値

- 年平均成長率3%以上  
⇒ **-2.0%**
- 連結営業利益率15%以上  
⇒ **6.8%**
- 新薬群比率の向上(50%以上)  
⇒ **34.9%**
- 新製品の上市  
⇒ **デザレックス、ベオーバ、ラスビック錠**

【 計画策定時の想定を下回った要因 】

- 薬価制度抜本改革
  - ・新薬創出加算の見直し等
- 新薬事業（国内）
  - ・デザレックスの一時供給停止
  - ・ラスビック錠／KRP-AM1977Yの上市の遅れ
- 創薬ビジネス（海外展開）
  - ・ロイヤリティ収入の未達  
(導出先によるKRP-203の開発中止)

「ステージ3」では、新薬群の伸長による成長トレンドの実現を目指す

**新中期経営計画「HOPE100－ステージ3－」  
（2020～2023年度）について**

## 外部環境

- ・医療費抑制策のさらなる強化
- ・新薬創出難易度の高まり
- ・販売情報提供活動ガイドラインの運用

## 内部環境

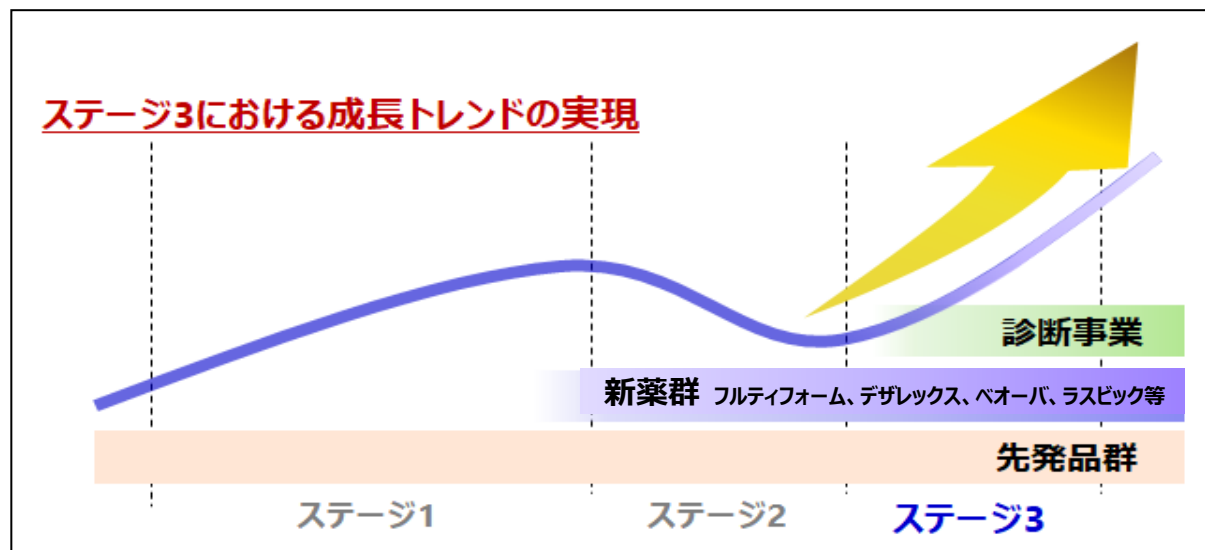
- ・成長ドライバーである新薬が出揃う
- ・新規事業（診断事業）への期待

キョーリンの「**オリジナリティー**」を追求し、**成長トレンドを実現**する。  
収益の持続成長を基盤にして、我々が目指す革新的新薬の創製を成し遂げる。

### 【Statement】

**「オリジナリティーの追求による成長トレンドの実現」**

(イメージ図)



## 「HOPE100」のStatement

キョーリン製薬グループは、ヘルスケア事業を多核的に展開・発展させ、2023年には社内外が認める健全な**健康生活応援企業**へと進化します

## ステージ3で目指す姿

**革新的新薬の創製で世界に認められる企業を目指す。**  
そのために**新薬事業**、**GE事業**、**感染関連事業**（感染症の予防・診断・治療）を複合的に展開し、人々の健康を幅広く応援する



## 【Statement】「オリジナリティーの追求による成長トレンドの実現」

### 事業戦略 (Strategy)

- ・ソリューション提供型への変貌と新薬群の成長加速
- ・中期的な成長を支える、パイプラインの拡充
- ・革新的新薬の創製を実現する、創薬力の強化
- ・コスト競争力の向上
- ・海外収益の拡大

### 組織化戦略 (Organization)

- ・働きがいNo.1企業の実現

### 成果目標 (Performance)

- ・成長性と収益性
- ・資本政策と株主還元



## 事業戦略

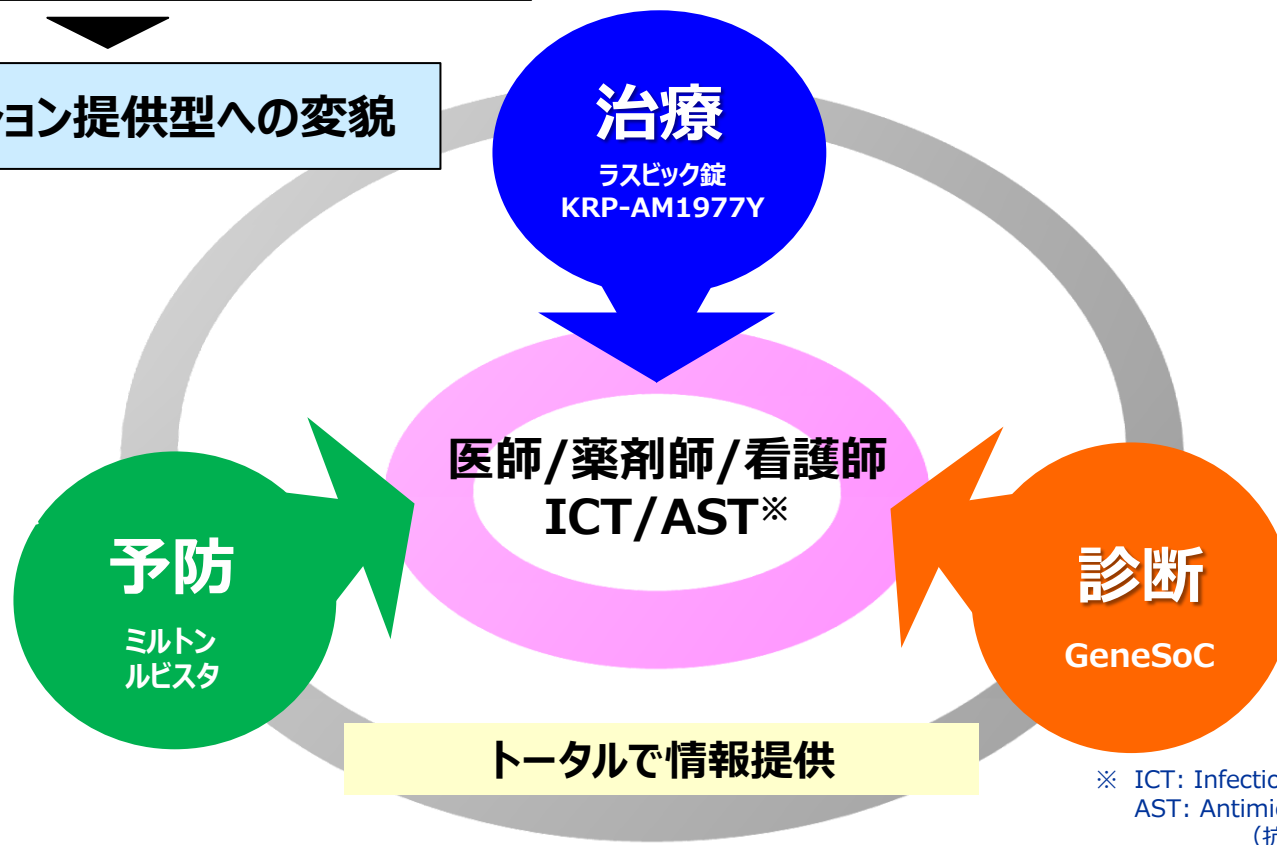
### ソリューション提供型への変貌と新薬群の成長加速

- 医療用医薬品事業と感染関連事業を複合した、ソリューション(課題の解決策) 提供型に変貌し、医療関係者に対してキョーリン独自の貢献をする
- 新薬群の成長を最大限に加速する (フルティフォーム、デザレックス、ベオーバ、ラスビック等)
- ヘルスケア事業については、感染関連を中心とした事業に集約化する

環境変化への対応  
(MR活動/医療提供体制)

営業体制の再構築およびディテールの強化

ソリューション提供型への変貌



医療関係者に対してキョーリン独自の貢献をする、グループ横断的な営業体制を確立する

## 事業戦略

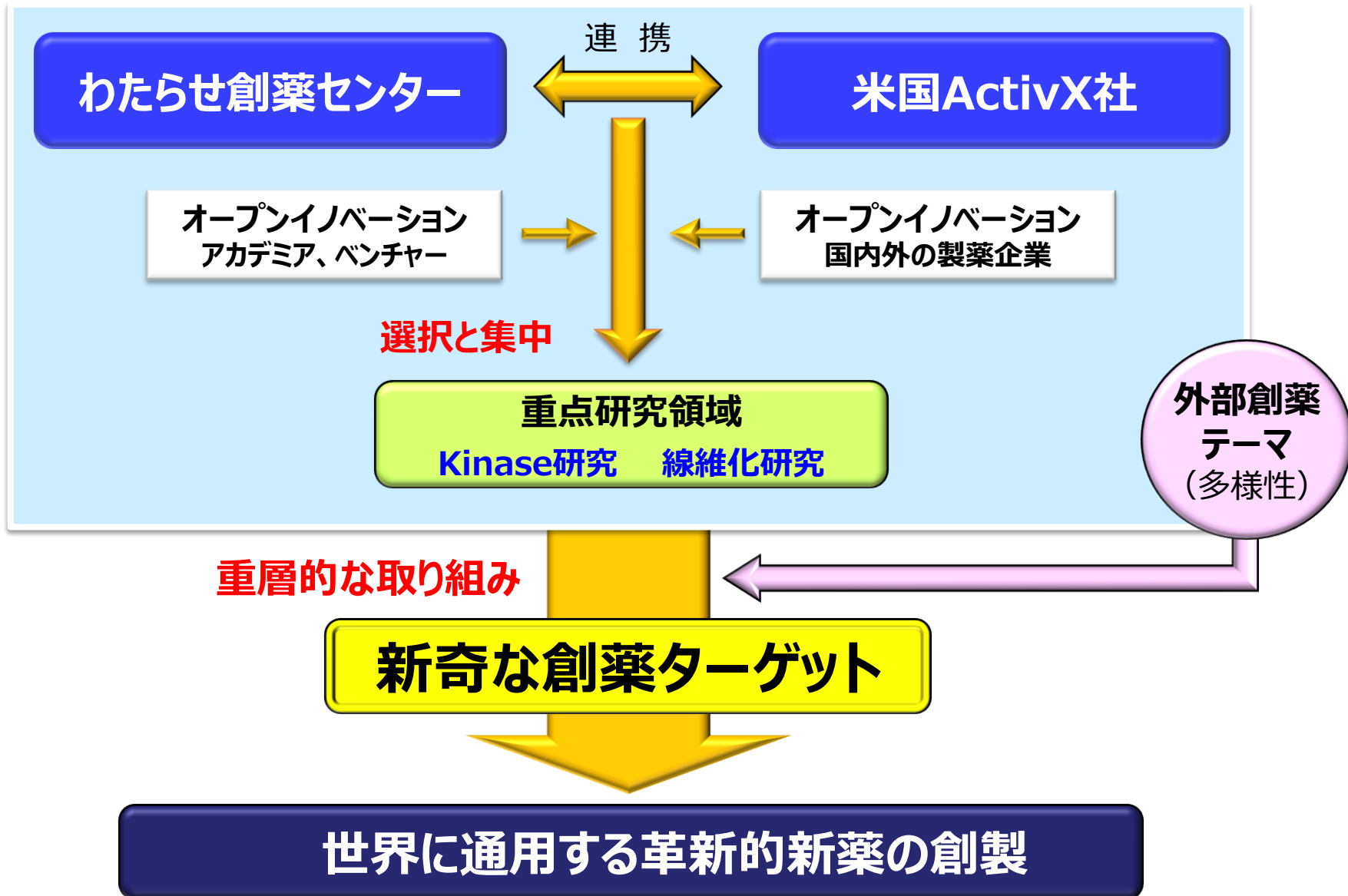
### 中期的な成長を支える、パイプラインの拡充

- 導入対象疾患領域を、フランチャイズカスタマー3科※周辺、感染症、希少・難治性疾患とし、中期的な業績に寄与するパイプラインの拡充に積極的に投資する

※呼吸器科・耳鼻科・泌尿器科

### 革新的新薬の創製を実現する、創薬力の強化

- 現行の重点研究領域・技術の重層化と、新たな研究領域・技術への挑戦を継続する
- 新薬候補品の医療における価値を明確化し、研究開発を推進する
- 自社でのPOC取得を基本とし、早期のグローバル導出を目指す
- 創薬シーズを積極的に獲得し、多様性を高める



## 事業戦略

### コスト競争力の向上

- GE営業体制の効率化によりGE事業のコスト競争力を高める
- GE新規追補品の創出力を強化する
- 安定供給と低コストを実現すると共に受託製造の拡大も可能にする、製造体制を構築する

### キョーリン製薬グループ工場におけるコスト競争力の向上

- ◆ 各工場の製造バランスを平準化し、外注費を抑制
- ◆ 工場間の人員の流動化を図り、効率的稼働を促進
- ◆ 設備の有効活用を実現
- ◆ 生産能力の拡充のため、新たな生産拠点を検討（富山県高岡市）

滋賀工場（滋賀県）



井波工場（富山県）



能代工場（秋田県）



再編効果の目途：2023年までに約10億円のコスト削減

## 事業戦略

### 海外収益の拡大

- グローバル導出を促進し、海外収益を拡大する
- アジアへの直接的進出に向けたステップを着実に推進する

## 組織化戦略

### 働きがいNo.1企業の実現

- ・働きがいNo.1企業の実現に向けて、次世代の会社を支える人材を育成・獲得する

## 成果目標

### ・数値目標

「連結売上高」年平均成長率 +5%以上

「研究開発費控除前 連結営業利益」対売上高20%以上  
(営業利益 + 研究開発費)

### ・資本政策と株主還元

資本政策においては、健全な財務基盤を維持しつつ成長投資と株主還元を通じて、資本効率の向上を図ることを基本方針とします。株主還元については、DOE（株主資本配当率）を勘案して、安定した配当を継続します。

## ■ 将来見通しに関する注意事項

本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。